

地震時の対応（研究室内）

1. 揺れを感じたら または 緊急地震速報を受信

- ・ ガスバーナーなど火気を使用している際は直ちに消す。
- ・ 研究室のドアを開ける。
（避難経路の確保。大きな揺れで建物が歪むと開かなくなる。）

2. 直ちに安全行動をとる

- ・ 安全行動の基本は、DROP → COVER → HOLD ON
DROP：姿勢を低く
COVER：体・頭を守る（机の下などに避難）
HOLD ON：揺れが収まるまで、動かない
- ・ 上記行動で机の下などに避難できない場合は、落下物・転倒物のない場所へ移動し、低い姿勢でカバンや手で頭を覆い守ります。

3. 安全に避難 ※避難が必要な地震の際は館内放送があります。

- ・ 揺れが収まったら、機器等を停止・電源を落として屋外へ退避。教員の指示に従い、訓練どおりに避難経路を辿る。

- ・ 地震時に屋外へ飛び出すのは危険です。
（割れた窓ガラスなど落下物にあたる危険があります）
- ・ 棚の転倒や本などの内容物が飛び出すことがありますので、頭を守りながら離れて下さい。
- ・ 転倒防止の措置を取るほか、日頃から取扱い物品の危険性を把握し、緊急時の対処法を確認して下さい。また、柱の側など転倒・落下物のない安全スペースを実験室や廊下に確保することも検討しましょう。
- ・ 防災訓練に参加しましょう。今年の訓練は 11 月 日です。

地震時の対応（講義室内）

1. 揺れを感じたら または 緊急地震速報を受信

- ・直ちに安全行動をとる。

安全行動の基本は、DROP → COVER → HOLD ON

DROP：姿勢を低く

COVER：体・頭を守る（机の下などに避難）

HOLD ON：揺れが収まるまで、動かない

- ・上記行動で机の下などに避難できない場合は、落下物・転倒物のない場所に移動し、低い姿勢でカバンや手で頭を覆い守ります。
- ・可能であれば、講義室のドアを開ける。
避難経路の確保。大きな揺れで建物が歪むと開かなくなる。
多くの講義室は引き戸で、開かなくなる可能性が高いため。

2. 安全に避難 ※避難が必要な地震の際は館内放送があります。

- ・揺れが収まったら、授業担当教員の指示に従い、訓練どおりに避難経路を辿る。

- ・地震時に屋外へ飛び出すのは危険です。
（割れた窓ガラスなど落下物にあたる危険があります）
- ・天井の照明や蛍光灯の落下や飛散する可能性がありますので、頭を守りながら離れる、または机などの下に避難して下さい。

地震時の対応（圃場など屋外）

1. 揺れを感じたら または 緊急地震速報を受信

- ・直ちに作業を中断し、安全行動をとる。
安全行動の基本は、DROP → COVER → HOLD ON
DROP：姿勢を低く
COVER：体・頭を守る（机の下などに避難）
HOLD ON：揺れが収まるまで、動かない
- ・動力のある機器（トラクターから草刈機まで）は直ちにスイッチを切り、その場に置く。トラクターなどはサイドブレーキで動かないよう固定する。
- ・近くに頑丈な建物がある場合は、そちらへ避難。ただし窓ガラスなどが割れて落下する危険性もあるため、圃場など広い場所では、その場で上記行動をとる。
- ・ブロック塀は倒壊の危険があるため、すぐに離れること。

2. 安全に避難

- ・揺れが収まったら、授業担当教員の指示に従い、訓練どおりに避難を実行する。

地震時の対応（補足事項）

- ・ 地震の正確な情報を入手すること。震源や規模。震源が海底の場合、津波の恐れがあります。津島地区の海拔は 5m 以下です。
- ・ 東日本大震災の際の津波は、河川を遡上することにより、想定よりも内陸部にまで被害をもたらしたことが知られています。津波・大津波警報が発令された際、旭川周辺の地域は特に注意しましょう。津波・大津波警報が発令された際は、速やかに高台へ避難して下さい。

デマに注意し、ラジオなど信頼できる情報を入手。

SNSによる個人が発信する不安や混乱を煽るような情報には注意しましょう。鵜呑みにせず正しい情報を得ること。スマートフォンのラジオアプリや防災情報アプリを利用することも有効です。また、これらを利用すると、避難に関する情報も入手できます。

避難場所（農学部グラウンド）に集合した後は学部等の指示に従う。

帰宅が可能な場合は、大学に報告の上、帰宅する。同方向の者などで、できるだけ複数で行動する。帰宅困難な場合は、教職員の指示に従い大学に留まる。安否を災害伝言ダイヤル(171)などを利用して各自伝える。